KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

特別
リ 5
12432
21

大同記八物語中目録

上下雑用

一方寸物砂無減夏人之天下國家ハ牡丹嬢ハ之ヲ

一論弱病ヲ猶ヲ重　一因山水歌於者

一ハ人の富ヲ　一論君臣ハ之ヲ万万ヲ之ヲ社

一論彫瑑ヲ功則　一威孫家ヲ名ハ一ハ猶り

一人才ヲ之ヲ一の世系ヲ

上勝

一撰ヲ之ヲ法

一真計　一寧和家臣ハ之ヲ心掛覚

特
15
12432
21

58 2132

要語

一同年相親愛事
一君子学問之所貴事
一改過之事論語上二人
一論命与財
一論生死大
一修己修身
一吾道之所印天地
敬戒
一慈母之恩事
一能知我
一賢人之行
一辯口
一論文章
一論生死
一有自然之理
一修論之撰不敬
一毋不孝事

一孝子
一兄弟
一乃好学多甚之事
勇気
一毎物明之事
一君臣之膳之付宗国之親
一賢人侮辱煙之方臣害事
一五常之道男八多勇私闘
一国之一者政之男子北先拓
一夫婦
一妻婦孫
一志士仁人之撰不書事
一朋友
一人之辯論事論
一親戚不義事
一家人病事
一大第害事

大閤記八抄録下目録

武

一國を亡用久武を為る　一良将と為る
一於軍中深気なる人を求る　一百万の国に沈思る中
一真忠　一重恩
一強弱を武柄に依て兵を　一能用下知多軍に利を
一軍利を失はざる和　一士卒深信多多を天勝
一多勢を防ぐ為に採る一大器を用武威多軍中和
一意武功に月に大なる器有　一前表
一雑事　一単指を人を知る

大閤記八抄録寒中

○上下五見　小瀬甫庵道喜撰録

一方方の三傍れ師を賤人の天下國家に牡丹積みす
第に嘆ふかく〳〵て陳ふる〳〵ぶの大閤秀吉
公を初め秋山陳内を三作と内藤助盛羽
柴左衛門督秀治小早川筑前守隆景ホなる人〳〵
まうはあれとみさにはれもと乃〳〵さうれ人力乃
及に一通又ふ為ぶ一通つまあり大ぶにおてい
天の脚ふあ〳〵もんいいうのそや此人〳〵人を
謀所ふ工なるもの〳〵う兵ぶを計るにおてい

拙なうるもの形ちの所なるの有に経とかく学も
ひ行るもの。治きるもの。治世の久しく
を見うるひこうるたに。世用ある所人ちも。
はもあるもきうもの。何ものも大やう
よこを家風は古くを高をは新しきを人に
るるをひくは費の多をを勤めふ物の
所なるどもくうは要方をふのとめ所の誰
理此のこるかるたに人をこたるを
ていは嘆うんるを求をつをを。武をつるを事を。
なはをを家あるまるをを俳をんるを

思ふ支薩摩太守治津家めんくと代久しを
なをゆは十人を家老をて業の裁お此人に
治るるを此人を拵出るをだををして一竜
も知んな。家老職を紀知ある完法をて
此職を出時は治るをね大なる何るもおるに上は
上を治を勤めは下を礼を尊義弱を
ひ佐弱民好を民を接育を又能列を若部
伝連を紀五百を以来はるるをてを何
を家人を住て主人は代を兼を主人が
く富をんをれは必家にはをを人を伝

（伊）家に又傷を用ゐ治をきゝひ医学を学ぶ。理学を用ハ古しこの道にして時にあふ
古言一言をいとし。のこなり下の捨ぶ
くに何ゆゑ大とする所也あるを世の学人
つゝまれ知やハあらん

古語曰 利害 賢愚 用捨 是非 好醜 之意甚明則 釈不能 友不交 与不釈 享不成 物不契

あるをいハ哲人ハ的を思ふ嗜をいー。賢愚善ふ
を思ふ沖也。完勅の菊花仙人なるの事な
らぬ白ひ乃又ハ多き我もいつまでの多のまー出るを
なき成ハ有り。者ハ云能ハ勿論さハくー甚
明の癖もなく又見ぬにもなき物ハ。
一偏瀦病を極重ハ
つゝく世界の上下を見るに孔賢伝を瀦人や。
酒を乳飲人に比ぶれハ瀦酒ハかゝる瀦人ハ
寒を実理をふ知人ハ極重ハあるあ。大ら瀦
徒なり。学文あを敷ひ学利を遂徹ふるよ

も。蓬功ちゝを除て云ふ所も。越ひとしく
及ぶ所の人乃因縁なり。
酒宮瀧病ハ有子國主と寵臣某の人ゝ多物如。
きれもいつよハいるを於て人ゝ治せんとかゝる毒物の
麻ちとをいなり此病を治せんとかゝる毒物の
所〳〵ニ能ひ成ゆのひ色を色に改めすを
こうを清む人〳〵ニ色を毒薬ものそ所の人ゝ
ハ地ハ四物のうを強て呑るに瀧を
呑て〳〵ものと空し。薬のそをゝの上色ハ
人乃因ものつをきいおりまゝ毒成けり。

或天あるよ有ゝ或所〳〵き能を変色。第之代
変ハ色ゝよ瀧毒をゝ成ん。我の縁とゝの自
然ゝ掛ゝを泥つまゝよ見て おゝを通つ〳〵ゝ
瀧病ちゝよ毒。
一国山水毒於我
嘗獻山勢高峻真截者即生物不輙成甚合
轉廻環者多生物之力一家水流胡石流多水急所
巢鑿不留測潭深多魚鱉之属鱉之以是験
之人甚嶮急淺露者必無所蓄積必不能宮物
作事則軽易而寡成矣寛緩深洸者則所

蓄積必多於物無所不容作之則安重有効
而事必成嘻觀山水清可以觀我矣

一玉乃富貴
者おい色のをの玉をいとをしみ
をんの富をしたがよ者て森なり世ていに富をて
玉をし。伝説をきて心つくしを。患難よあ
ふくもを糠を喜ぶ。唯理をを見れば
難うれつまり。是をて富貴なる事。
語曰怪力乱神。
一無有 君子子朋友を間柄多美を成廉を論

元天下ヨリ至於一国一国ヨリ於美を所ふ和を者皆
由テ治ヲ知ル。皆ヲ以テ合美ぶ。玉美ぶを美和を楽
皆合接能業トク。君子ふ親成ヲ朋友を男有義リ
恐ル。夫ハ蓋徳形ニ間テ和を男過ぎ殿ふ楽美。
語曰。何ぞ人ふ中あ人ふ和を徳
形の色ぞ。
多し。
一潮セキ積を物のつらふを海を
そを生を東ヒの色をを寶つを。
う潮ビの弱を広そうつまり世の

万事に此乾海の深きに信をおきましおのづから
人を深くそんとおもふにも又誠実といふて空
しからん唯物は能くあれ共死を損てそ鈍を
るまじ行の大切に信するを守る時人の事を未にしも
聊人をおもふは只さが行事をいとふてもさ流
を重ミ知らるなり世を相ひてしぞれは必ず来
しミ状まんやも海し世の人におもふてるとも
ねやまはゞおもれても出ても尽しからの心も思ひ
うに物に驕き病気でも心のうへも息浅くら
はやうみて覚えて作る元て人の心の相をしてし

天地みなるまじはそ物に争ふてはこれの事な
しもあらしきめなり。
一戒篤実なる者は必ず
主に使ふ者の勤めと勤め方を探して長くも勤め禄を受
家業禄出来る者に
注曰熟生れのまゝさきを上下ともに生まれ
て大社之蔵にもとづき人は尊し此蔵に申
家国家の仕置家をあり家業を通して豊富
由あしきらんや遁思禄は思ふ故に大社に出て学ぶ
されは篤実なれば天神も

注曰篤實則力量深厚而謀慮審固斷所以任二大事一也

感應しあふて君安からず。國家亂るゝ。民艸に
及ぶまで性も小民の父母たる志あるべし。
一人才之高下無二等一
天下之奇才ハ必有ニ而天下之明ナル處ニ無ニ出所一
天之降才也不レ多。人才之遇合ハ千載ニ一君。自
古及レ今見ル之處常ニ多ク而君ハ少ナシ寡ク多
奇才難レ得又不レ難ニ明君之爲ニ難レ得也　楊子
語曰。奇才ハ天下之器也。君子重ンレ之語者ハ有レ矣
也。故ニ不レ用ニ奇才ヲ用ニ小人ヲ必敗ニ國家ヲ矣。
上務

一擇レ士之法
古ハ擇ニ其學者ノ徳義備テ而度量大ナル者ヲ爲ニ大學之
師一ト
語曰。素餐ハ天地之人を害ふに採用して忠孝人
治才の者なれバ其本とし丁寧に職禄の厚薄
有しと雖も一めに用ひ頼ても其法はなしハ皆く出
其の失あらんや。哲人擇出され大任の職にあ
らバ國家の上にまでゆるしと為て不足ならへからず。
其餘の家臣の流れも萬に至る迄へ随ふべき
しかれども甚つハあれと口振し一言々の作る所なり。

角の事の理は事に合て大ふるまひ無き業
家也。是れは推古の時のまこと。
九遷せられし菅原の清潔なる家業は
能く孔孟道の業に暁達せし上
語りもてはやすもの世事の職
をもつぱらこれを用ひ用に適て業をやのみん
事ふ事用を用ひ
物成。
一事も家に忘るる事を掛へき筆
君の出るあらんとぞ
あらはれをあらはさぬ味の原

原をはるに有て也。
老人四をの事を利せんとすれ。
能利を人。実を利せんとを先に
家のを以て糧成を為ばと
なれば。を以て守ハを以て糧成を
君能に業理業をあるやうに
を弟なるやうに
角のをしへのつ能を勤めて上下の
てをを物成。
語原の業を勤めりひ業に理業を深へ

え。國の人をもつて知れる。西の人の業
評つたなうして何ものうるやの知る事。
忠義を日日に業ひらんとすんば。或つ武藏
を業ひたちやうあり。業。心をうして才なる
人を養業成るやうに知れば。武藏は比
うまつて。武藏もつるまれ。
たつあり思を業を一部をつて業の汁を飲
もんしみ思をも能きぐ思ハるりぬ知る事。思
を能しを思をきハ者の一きハ者のつきハ者のきみあり。
ひみよの心と強て業能よあ思せんとさつるを

ハきんしみ思をきハ者ハ者の思の不他よあ思
の居をあ家を思みつハ顯頁乃心をるんきをあ
し藝能を思しても業を義をなれ。
海内大に藝能に仕を思をれすきぬれを。
業を無をうに業りをれり。

一真計

人を定を治天下必先西を治を之を和人を定を名
必先西用実を心を已治敵国を作人国和必先敵
を用実を心を已治敵於夫若石謀事也不以舞
謀事而以算謀事也算也安樂朝を主子

然共故に用孔子の心や

或曰吾郷の中も迚も此に以て所あり天

下の比前尾張の伝雄の日に津川玄蕃允

武備家 曾国藩の書 尾州藩 浅野甲斐守 家臣 井部人や

年十 伊達も仙台藩の伝雄卿いと勇

強の豪傑なり上に此三雄を見て活の

秀吉公感じ相はされ共此三人を万像し

強の三人を用ひ給ふ心を知らず

雄強なりも実して雄の三人伝雄

の事に当り是に依て天下

十二年三月三日於尾州名高屋三人を生害し

給ふ三年の内信雄を杜国家一

豈尾州勢引まとめられたるや

○要語

一能之我事

天理也人亦理也循理則与天為二与天為二則非我也理

也理非理也天也唯文玉純徳故曰在帝左右　性理大全

一因于物修我行

青天白日の心泰山喬嶽の立身氷清玉潔の操行古今肩

酒能使人之大失者乎

一能使物之相乎

千金之寶可以借客十金之壽不可以借人非愛十金百勝於千金之有所愛也已不得已而為之也　古之為喻

一國之圍四之內之兆失指

君子淡言之直言不忘知人益進而直言倒直言倒則君主陳於其國行而其身事死其兆失指矣　大明一統志

一君子學者之所以貴之博

呂氏曰賞必當功罰必當罪刻核之偏也罪疑惟重君子長者之心也以君子之心為己之心自苛刻核之偏如君子不畫人之歡不竭人之忠去甚泰甚則太平之功可立矣芝草生牛露降醴泉出皆是和氣薰蒸所生　大明一統志

一聖人之治也

直而溫寬而栗剛而無虐簡而無傲　日

一四海之外偏生上一人

天以陰生萬物以陰成萬物生仁也成義也故聖人在上以仁育萬物以義正萬物天道也而萬

疑惟重君子長者之心也以君子之心為己之心自苛刻核之偏如君子不畫人之歡不竭人之忠去甚泰甚則太平之功可立矣芝草生牛露降醴泉出皆是和氣薰蒸所生　大明一統志

一聖人之治也

直而溫寬而栗剛而無虐簡而無傲　日

一四海之外偏生上一人

天以陰生萬物以陰成萬物生仁也成義也故聖人在上以仁育萬物以義正萬物天道也而萬

物非聖哲能為而為之民化大非大化不見之迹為
知其然之謂神故天下之富在上一人之豈
遠乎術豈多乎哉　曰
一聖人感天下之心無所不通無所不達者而已
正者居中安我之謂也為之而已　古之為
一偏命之付
死生自命也貧窮自時也然夭折者不知命者也
惡貧窮者不知時者也當死不懼在窮不戚知
命安時者也　列子
一偏大真

泰伯曰豈以耗據累大真乎
或曰保周祚八百年壽年者天地之神感於
大真之美
一偏去小就大
思量前古當之命亦僅其志一二大者　白氏
一守儉為第一基呈
儉於聽可以基廣儉於視可以基弭儉於言可以
基家儉於私可以獲富儉於公可以保貴儉於
嬪嬙可以保壽命儉於心可以出生死
一偏備己俟命

富貴貧賤莫不有命 古人當修己俟命無為造
物所嗤

一知自然之實
看得之理儘自然實

一吾身之明所即天命之
性之吾己吾身以自然之
理為的

一能不然之實以道理為
主惟刑獄の官に事用る人を不造道
るのみ。されい失ふ所を能造ふるや。是ハ學

問の事物ハ何事を事自然にしてハ人民枕を
高くして安きに置ふを以なり所なる
人形心あ是ハ國内自然よりこれ多くて
なる義をもいうれる害をもいうるやいし
と謬あり〜思ふ物のうの事〜きの強ハ此の富る
ふ所ハ理に至る所なるなり宜よ所なる
人人ふる名の信ふるかくつくひを進しん
を効〜て天人を好情あ〜ハ事生ずるに分を
変あ〜〜所業限に事を勝人足るる。獄官に
ならを人所をゆるして。ふまを貴〜ひを破義

何くるの姦しても因て奸情を飾るもの多しや
向ふ妹中盛ね城傾亡なりと云ふ因亡ふあれ附
ほんきこ辞ありとや思ひきんど自ら経服し何しき
家ちこと艶思ふる。余人の所ハ斬刑ふ極めおり
ふくりと。中盛ね猪備の目亡ふ服しれ家尊の
去くらて。先ず亡もを家ふ。其の氏昔し旅ふも藏を
得うり。妻桀ハ寡婦姦男ふ因て密子を亦殺乃
亡ふ伯理て殺さんとせしを淫奸をあらり
ふみ亡を釋しあり。作史ハ襲災の衆生の宗を
割なりて多々ふ写し万世なりと誹せしとぞ

其の臣此の謀告を豊災を襲災の早亡ふ至るをあらへ
をしかるに童豊三年遊学の民勤め隔かりし者。
ふ安他人と奸ふして豊を殺さんと謀て体あり
為るく巧とめくりしき其の性奸虐を得て妻を殺
しゆるしなりき。妻の兄弟ふして豊をなすふ経。
豊ふ徳甚き標目経服せしなり。中ぐ人皆ふ口を
其の罪融猪ふ経服ふ私謝罪ならして亡ふ服
ある者のやと艶ぬかりて豊ろ一夢の性を至ふ付て
奸人陥畠を得く。豊の亡を釋しも。王罕濬ふ
可ある時。狂妃其れく近ふるのあるを。鎮ふせう

こうよりて人をこうすきくうかう
の獄なもひきくすなくきみの身をあらし海
くくまくおうれ夏のたまを年をうけくまくに妬
妬みて祈ふ云後去ることなるを云ふみ夏人
るくくくて。儀軍の可きを老人よつハ性妬始ハ
人の婚姻ふくくくうかくて。こ毒のみあわ
死して毒とをと儲くくむ姦を出て家死
皆毒ふくくの。妬ひるをを憎て乱ひとなる仕ふて
なお。軍毒う強死を激ふ妬ふ家ひ死こと
くくと源くくれハ。妬やてむ性ふ云後いまを。

見皆獄ふ去一人ぞ獄分の強をみくく性こと
ふ分ふ。好情をハ。ふるふハ直曲ふるハまくしるに
極ふ。怪ふにハ。見ふ曲て意人成く安ふ
ふ解くくの

○教戒

一ふを面ひくる意母ちやををくく
強葉と云人男意ふ去をくるしろけくこ作る意
ふに朋云来て語ふくくく時。母必ちやを
云作くふり。函務をふくく幸性理云ふを語し
て慰ふ対ふ。母悦てぞこをてふくくをいを

なるべし。されば雑(サツ)子にて日を暮しく
侍る時ハ殿へいづれも筆をとりてなぐさみし
とや。いとたふとかりけり。
一 母ぞ諫めらるゝ
陶侃(タウカン)と云人尋陽県(ケン)の吏と成て魚梁のすなど
りし侍るに其時母のもとへ鮓(ハククリ)を送り
ける。悦びしこともなく鮓を封(ジ)して返し遣
責(セメ)て云
汝海魚を守りて手備とす。鮓も公の物なり
此を何ぞ私物のごとく物をば送る事我

心を悪(ニクナ)むにあらずや。忿(イカ)て痛しむるは父母ぞ
め此物を公道なるにあるまじ私用もてするなき
道と説も小けれ
謙信代なきとは申し侍る人此事は鑑戒(センカイ)と
宝物を私用すれバ父母なりとも人は飛何事因果の恥ん
れて飛流(ニウ)ぬるは良君は流めさせねばならぬ唯を
乃道に背くものにいはれのあるをいはずさきうし
の中 小
それやらやむれんとおそふいとなることを
るして才をいぶるしめける事

一 孝道

伯兪あやまちありて母笞(ムチ)しもとにて打ければ伯兪泣
てうらみしこそ見えしうへ。母問て泣けれ
ば其は何ぞやといふ。伯兪曰、母君の御力
を且打(カツ)たる人の身にや覚しみと痛む事なし。今ハ
かろく覚え侍る事をかなしみこそあれとなく
利(ノ)呼(ア)にこそありけれなお
孟邂(ミツキ)至養にて母を養ふて。志を貼(ニタカ)りんする事を
考つと紀とぞ。家貧なるにたらち菓実(コノミ)を以て養ひ
不違(リ)辛労力を厭(イトハ)ずかくて母をしく八衰號(アイカウ)し

築(ホヒト)怪を蔵(ホゝホ)まちゝし。上六院伏ふして云るとて
めるの三才。常体を知て。親を見せらるゝハせつ母
二風来て地を振(オリ)空(ウカ)つらんまで。見をとられハ黄金
枝子の為何利。己こゝら人ほかのやと旅しくりて見
られ何ぞのも奉まつて。大なる罵家と志まるかに
孝。孫曰振風何由還帰宝。孝の歓相継蔵天心一
時ふ但家能富寡(カチ)得(ユタリ)寿名誤到今

一 去婦

或問於郁離子曰在律婦有七出、聖人之云からは。何以見援

出雲守藤原元北家人之妻を姦淫せんと欲して元北の像を作り盗
み奉り元北の面を五寸元北下て西指の姿にして
宮の内殿の後に安置し元北人に言て云はく朱丸
て大きに驚き思惟して云はく朱丸婦人偏に元北の婦
姦の事を聞て天下の政を掌るべきの
婦の係る所にして天下の政を掌るべきの
理なし宜しく元北の像を焼き捨てしめ
海に投ぜしめ跪て元北の面を久しくなつ
みおとしめて曰はく我が妻の白刀を以て探る向
て曰はく我が妻の蚕繭を累て寸に至

る累寸に至る毎に朱丸匹帛と此様を影ちて
朱丸ちて元北の像を元北の家に送れり元北の家人元北の
接客を元北に告て勤め明仕をうるきの
の中を通りて遣ひなしに何を此機を
明らかにせんやと諫て曰はく其子を元北を感
服せて家を接ぎ明仕をこの義辛に於て
元北に奏して曰はく婦朱丸
婦人。夫婦を以て為す者を先として婦人

一志出仁人ハ本書を編撰ニ一の道(ハカリ)ゴト
ヲ事業ノ中ニ置ル所行ヲ立ルニ必ハ
仏ノ教ハ世ノ人ノ仏ニ成(ナル)ヲ願ヒ神ノ教ハ
国ノ人ノ神ニ成ヲ願ヒ国家ノ先祖ヲ崇(カケウ)業ノ教ヲ
生ル者ハ此ノ教ヲ以テ一心ノ指ス所ヲ
一毒ノ害ヲモ作ル者ハ若心ノ為ニ(ワヽ)ヲ撰(エラフ)ベキ
ヲ定ル当ナリ道(キ)ハ士作ル者ハ我ノ教ハ流ル稲
業作ル者ハ我ノ業ハ流ル稲
ヲ引ル者ヲ道(ハカリ)ト云ヒ
ハ一ツ

語ヲ要ル所ノ教ハ
ヲ生ル者ハ人ノ為ニ(ヲヽ)ヲ撰(エラフ)ベキ
心ノ為ニ(ヲヽ)ヲ撰(エラフ)ベキ
身ノ為ニ(ヲヽ)ヲ撰(エラフ)ベキ
ヲ使ヒ者ハ物ヲ撰(エラフ)ベキ
和人ノ教ハ式歌ヲ以テ唯志ル
もろもろかたちをいとりもいとはぬ
しわらもろもろ
まあやうにきこえたるハ
らうをそのおもむきなり

かくれ玉ふあらし何しあはれのまに付
てもくちはて此世のあさましさよ。

一 兄弟

衛國宣公の太子伋(キウ)は。異母(イボ)の弟を壽といへり。壽が兄
なり。壽が母伋を殺(コロ)さんとて。齊國に使(ツカ)ひ
せんするを於てひそかにその謀とつくりて
謀る。壽是をきゝてかなしみ兄に告。或時母
遊びを伋にすゝむ。因て河中にして殺さん
とせしが。壽密して同船してかくれ居けり。何
とても兄と同じくならんと思ひ。兄に代

て其日は慈(ツカ)なし。其後宣公に後母云やうは伋
を齊國へ行しめ。路すがら盗人して殺すべしとかまへ
ける。知(チ)識(タク)し伋を齊國へ遣し。異母が謀にて
道中にして然らんとせし。壽亦家へ帰り兄の旌節(ミヤウツク)
を盗し先立ちけり。賊謀(アヤマ)て壽を殺しける。
伋涕泣(テイキウ)悲哀(ヒアイ)し其屍(シカバネ)を負て海(?)に衛の
境へとゆきし。其屍に付て。心さしのあさ
からぬを云答して自(ミヅカラ)手して首を刎(ハネ)死
ことゝもにせ。
後日。異母の後。悲しみのあまり涙を流し人皆

と能思ふべし
虞舜は瞽叟(コソウ)が子なり。父頑(ク)に母嚚(ル)。後妻(コウサイ)後母を愛して常に舜を
追出さんとせられけれど。舜は恭(ツツシ)て不孝の心なし。堯帝(サイリヨ)舜の孝
を感(カン)じ免(ユル)して。後帝もつて舜に二人の娘(モトム)。娥皇(ニヨエイ)女英を嫁(メ)
あはせ。其後帝の位を譲り給ふ。因て天下の財宝を手に入れて
ここに其名を昔の聖人に揚(アゲ)たり。悪人には(?)さへも
うち鎮(シツメ)てなせりて父母のためにさこそ孝悌
を揚(アゲ)つる事あるべし。何事もおほやけ
にすましけれ。

一 朋友

秦(ノロフ)呂不韋(ゴ)といふ人ありける時。呂不韋と云ふ者よ
し。呂(リヨ)氏老て我しらずしもまたにけりがしこ
き事。何ぞ人の身にもならざりしかん。秦の王子
かくて思ひ呂不韋と云ふ妃(サイ)と妃(ウバ)を身に置を分まて
て華陽夫人(ツイ)に取入て頼みに其事を語りて
を献(ケント)じける。華陽夫人を取りなし安らかにて
云ふ。子楚窮(キウ)屈して居たる事を見て。此子楚
は人奇(キキ)貨なり居くべきなりと人をして
様々の人物。其心(ニウ)(シン)の名を忽(タチマチ)に立てたる人(ヲ)には
事を起して後に人なりけり。事をたて様々のこ

思ふい家獄なりとて舟にめしこめ家。こも家
をとりかへしてはなまの家信ふりて
舟にはこの三人を能掖育して孫と
建な都死するに及て孫と母を連て
西國張斯と云人巴郡の太守となりて
ありしが時揚雄と友として学ふ方や
なり。性まに及て光武帝死して位ふ二三
年乃孫を出やり。商こも孫と母を連て住
室をふてをまつ。然る母よつふまつる
己の母を殺するなりて孫を連

一田宅産業をも罗め孫よ泥ぬ。時の帝しも
感して孫に位を授をまを。
孫日爰新ふい人をのもをきるを
帝新きをのをて位でぞ重くの感意
りまるるしゆ。
な人を家を代るを織を結
晋荀巨伯と云人あり。遠く友人の病をもつお
ありしが大軍を引率して友人の郡を
陥るあり郡中の人悉く逃ぬ。一郡無よ
人を恒て共を織伯よ向ひつ。

紀中の人名去。海猶ふるさとの何を男子のうや
こと。伯爵口。友人痛至ふ道義あて。新八家方と
友人うあるを代らんと。清絨ホ。伯うなること感
二人とまを命と。明神中をお
て毎一対寶を用と。を伯しを作るあり。
海口。を伯う伯を男実をうとんこうを
を国て天感一殆
うて伯うこ絨ホ意思と思を
蓮拙尚書口。惟来舊。清雖有兄弟不和生
一伯好多ナを

戴弘正毎得客友一人多出お孫山男樊名告祖
考號金蘭簿

○愛美

一毎物ある伯海物多百福をこを
家上物未なわ。光まれあり。平より世勢する基に
物云あり。国に奥獨あり。
或日物ふこ家を。伊甲出て殿堂を。
力雷生ふ用武なわ。敬侯口。光輝所天
務彩奥て自獨を。ふ男を百福をふを神的を

こゝや。

一人こ俗病はかぢをくれい、ふ春よ海を。

蕪そめ日人ゝに敵分よゝをきるものこそ好める。

法師いつゝそをこぶひをハらゝ引くゝ

ちを伸法ちこゝ法さくゝ。迷談し官路を

嘗あてわと。完よをを嘉勢めを。代業よ効

せゝ先祖の事業改めゝ。岩地ふ春ゝ。

武士の人ゝとまめよ出日浮遊し。武士猛く

業ていい弱且ゝそこてをして或義を名或閥四

移住人脳乳伝業民老幸何ゝも元くゝ

業よ拙をめ法ハ皆ゝを純ゝ絆ゝ四ゝよゝれゝを。

ゝや砂茶ゝ三。浮四百家拙ゝ元ゝ海

言法よ法ゝわ。業ゝをくくゝるを変ゝをゝ差ゝ

ゝ接ゝ義とし。変ゝ四ゝ去の天下国家ゝ大

くふ蔵ゝ見ゝくゝ。ゝ名ゝ所ゝの雑ゝをゝ日

たゝゝの家ゝを触ゝ法ゝゝ国家ゝ法めゝ

ゝゝて。ふ義ゝ通ゝ。

一名日不腫ゝ吋。ゝ士附平南ゝ沢ゝ家ゝ

ゝ惟ゝゝ。国病のゝゝ孔ゝ多ゝ。ゝ極ゝふ家

ハゝゝ名ゝ思ゝを相ゝゝゝ変ゝ。ゝ生

なる書をあを接育せしもあり脇なる間出来ぬるなれば曉を集ひ国をもつて行る時傍輩の中に情ありてあるものこと
て向きこるもふこと家をもつて宮を絶人愛に為人を回しめ此を業の
来くまそふれも拾ひまし来るなれば
他郷にして場者の書をもつて
此者のもわれやむ国をもつ時回をこの
ちさしどを見あ一教田番
用ふ一教ちれ拾ふと拾宮社集法ふ元

こあはまるわ。うくあなり成ちつる人も彼ら
をおやこをちし回思ちに回きを不思ちる
利。
一重小人偽者猛文士真民宮をる
ちに国政ふををもしの孤なる通
せしん所わをりをちに猛ふ表思せを強
く言わせぶるふハ拾して大ふ拾く。
雑ふおろうして実理ふ曉う。他ちあら
うれるも。此人の門者をちれ。学をうくち
家ましくしわ。初の義ふ所しくを実お

うして天位を捨て出て隙を搗き
しぶきの世を渡る志れ物のわかぶるる
きゝ小人あり天つ安人の出入をもまけ
やうに賊客日もあるに海とまりにさりなる
る形ゑ賢孔なと つかうもまゝきわ此
用の志物はをにるすハ雖ゑ君を異ふ肯る
て治乱生を中能を法ゝ三給へ。
一番船ゑ家いも廟孔闘ふ生大家宮ゑる
主君を大ゑ孫を授けるハ用一於戯場の
元敵ゑ為ハ。第二法ゑる用を逃さんゑあれ

ハ孫ゑを思婦ゑ女ハふ掘しゑ三ゑ対
仲河の志れはゝよるゑと云とゑんゑわ。一番成
夫ふあわ。又他人の口縁を奪取てとゝゑ累
ゑ動ひもあわ。戒ふ君與虎狐ゑ家也。剣へ
ゑき傷軍を夫ふる行ハ大なる不忠人よ
てもあゝんの。異孔蘭拘如ゑ形孔ての思こ
ゑ忠孝に全き大家なゝ。集ゑ去ハ命孔為ゑる
ゝ。いゝ三一人きゝゑのゑ名まて為ゑ
ゑ。ゑとまれなわ。又莫大ゑ思孫を多久ゝ
食ゑゑゝ。ほゑの孔ゑ志ゑゑゑゑる為よ

あらそ。全家ハ ねをんしとて。婦忠
うちなるハ大家なり。婦ハちゝ大きよ大まら
まゝ侯。婦侯ハ ちゝ下ゝ婦ちゝしあるゝ
ちゝ。

婦曰。世ゝ多く思ゝ ちゝ家のゝ ゝ
ふいまれなり。英雄 ゝ ゝ
ゝ ゝ病のゝ ゝ ゝ
ゝ。婦ゝ ゝ。婦ゝ 多ゝ なり。

七思 孫ゝ他の嚢ゝ
一 國ゝ男 ゝ ゝ 失拙

君子淡ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
直。直ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ ゝ
ゝ。先拙矣。

大明一統志

大同記八物語巻下

小洲翁菴主輯録

○武

夫軍の駈引ハ盤上の手立に粗似ゝゝゝかわね
碁の上手ハ敵味方するこゝろをかを較の人ぞ戒やんて
武士けなるの互し手行生来ぬれハ云利
に察しそゆむるあたく較こさぐ大わくを眺つ
うひ得ぢ無ゝとも全にれし法ふをいるまと
そ明君も大わかれを能使ひ得ぐ善人を悪人に
用ゐるしぐ悪人をもあれ人に付そ人ぐ彰身にれ
して用ゐぐ大用活溌の地也信も云ハ一筆乃

勢を十義よりはうひとりなやしなわ所をよ国よ
主ハあそこ国碁の上よりの下よりの上成ハ多く動無也
ろよ世人ハ多く空くよりのこうりなわ義よ雲
て空くよりあわ軍よ勢ろ所ひを用うふ
意ハ吹ろ自よりあわだらくハ魁のわとなりきんと
勇て敵を屠しー。を墓ひ高ようあしろす
ろしよ軍よりろて、を用ようれをれハ大な
る空よりなわ書ハのよりハまけぬやうよを伝
を生ひしーをひとれをちよ意あり塞
乃ひしー表ハ上よりと云を一向くもこうひを

紙あそこうれろを。塞のくもこ時ハ世陣をうちつ
け行ま世勝ようひわ。空よ世こく生意陣之成
紙多くく敵を味方およ安ひろ時ハ安陣を
もちけ陣ハ方こをうこ策をもれ。を知
ろを知せこくハ。ぞ云ハて。敵よ心こうす
ハ誤なくハ。ぞのハ心ぬハ敵とハ世あるこを
かひ軍よ敵をもを意をもあ。うせを
て世をを実よ心うこれをハぞをの任と成

一國主、英用文武ともに備はる者、
武を右に文を左にして、その業成られぬ。
ものなり。
武田、実名は文國、日本は武國なるに、武を右に
ともぐ文を左にともぐ、能ばめ、世に、藤民者と、
くんちあり。華に蓋無し、天武多くして、
の他も、あく、治めるすべなり。
一良將之器
傷ずハ、せしひ、きよらかなる
撰ハ、ちわりあり。

倍。大切なる人といふハ、此撰を取りて、
なり。嶋廣なることにして、其風をうけ、帆の開合
をハ、筆の曲、塩の波のうまくをゝ、自ら身上下
ちくるの安きハ、唯撰取と、一撰なり。合戦を
拓ミあひ、傷負、未死ハ、一撰、粥、粥と撰ばる。
ちわりひ、ハ、大家、未の去を、雲しぐるハ
廣ちの人をつけ、中男を、ハ、武將國
と和時、一武、敵の日、橋に、男を入れ、正
る、拓を、生、心、つ、男、やうなる、中、ぬ、味
業つるの、業やう、海、を、書、しるる。

一軍ゝ海賊(カイキ)なる人ゝを雲く弟ゝれハ仲中絶えて。
敵に利ゝを付べきハ者ゝ海賊なるゝとゝあゝる人ゝまゝ
ちゝもれ
海賊軍の惠(ウヽ)ハ切ゝつゝねゝ勢ゝをあゝこゝ敵ゝよりおゝを付ゝき
うゝなる人ゝなりゝ大ゝねゝ中わゝなゝるゝ中ゝを云ゝけ屋
説ゝを云ゝゝしゝるゝも皆ゝ味ゝまゝあゝゝ敵に利ゝる
子細なゝり。
弟一他人の武ゝをゝつゝねゝゝこゝをおゝゝるゝ落(ヲチ)く。
才覚ゝやうゝゝゝて接(ツヽ)者ゝ実ゝゝゝゝ人。
弟二ゝゝの堂(タウ)ゝ云ゝゝひゝきゝを松(ヒ)ゝゝゝ

おゝのゝゝる名ゝゝしゝるゝを講ゝ軍中和
ゝゝゝなゝ宮ゝ海賊ゝ善悪をひゝゝたゝゝゝる人
弟三わゝひやうゝゝ依わ弁法度をおゝんせ
ね事。
弟四軍ゝ去ゝゝを亟(フヽリ)説ゝ海ゝ者ゝ古ゝゝゝゝゝる
ゝゝゝれ人。
弟五兵ゆ形ゝゝにして善悪ゝゝゝゝゝ偏(ヒヽ)
ゝ好遊(ユヽ)ゝを好ゝ。弟ゝ酒好(シヽハウ)成ゝゝゝゝきゝゝゝに
ゝゝ人。
右宮病司(ツカサ)ゝ海賊人ゝゝ弟ゝ時ハ先軍の外立

なり。第四戒本を来学。況於軍体乎。大まゝ
こゝをこゝろ人き者ゝよハ。世ゝ宗病大臣
家臣まゝ〳〵て。正士よ権戒ゝ知ゝ。此
時ハ義信孔子心ハ本〳〵人〳〵。

一直き国ハ沈思ゝ中一
ゝ沈ゝ謀所国ゝ世ハ宜〳〵ゝれ海て思ゝて
遠ひゝゝなれ
けまゝ〳〵死生命ゝ家安世ゝ三ゝひ定処
ゝれハ一心ゝ家知ゝ知ゝ。ゝを〳〵沈め自体
乃信ゝ見者士ゝ勇士ゝ動ゝ時ハ宜

一〳〵き国ゝ自ゝ出ゝ生ゝ知ゝ。

一真忠

韓信を為主て大ゝ知ゝ迎ゝ知ゝ所ゝて真の忠ゝれ
徳ゝき人を中ゝ見ゝ者ゝ一ゝ者ゝ人を。望
人ゝ生ゝ者ゝ人ゝ生ゝ。ゝ者ゝて戦ゝ有
ゝも大平を一人二人のゝりてを迎ゝゝハ
朱ゝ知ゝ。ゝ用ゝ者ゝ人を迎
幸剣ゝの威ゝ。ゝ知ゝ大切ゝ行ゝ。
ゝんゝを大ゝ出ゝ所ゝ蜀ゝ以ゝ
ゝ人ゝ。

一重義

攻もせて戦もせん業をは全りて善の善なる

或曰。平生の為のあさましき業は合戦をして傷

もれいえて下国をはらひ迫れ物とられ妻

妾を人に下げ食やしなわ。弱ふる者に戦

ふ。遂に趙韓魏心服して敢て背かざりき。

一強兵盛摘方屈他の兵

他の兵を屈しもよなは戦を変よあむ戦をつ

ゝめて

徳。攻伐よりもくるしきを。他邦の兵を屈服せし

んるをあしき。第一第二は強兵也。

一能用下知軍に利る。

一知の下知をたがへ用ひざる者の戦勢乃

強くなる利

或曰。古人の平生の勝利のまゝすは唯大将の

下知の能否にあり。大将は無平生の用

ゐるを云ふ。大将は無平生の用

を無用人なり。平生の無事なりと云ふなり。

一將て遠き當る人ハ武勇ヨリ智謀ヲ專とし度
量ハ江海を吸盡し曉を拔星し。萬つ功
のの〻なる人なり。
一軍ニ利を見ル大ハ中ハ小ニ
隊と位のハ中ハ小ハ偏僻して量ヨリ体ハ利
うあれ
隊の將ハ一騎ヨリ一人して百人つ用ひ千人
人兵五万人也。騎ヨリ二千五百人。五騎合一騎二
ヨリ五百人也。又位ハ一万ヨリ五騎合ヨリ
五人なり。是ハ家老の位にして家ヲ治ル

下ハ人ヲ使ヒ人ヲ使ヒ。先ハ大ハ小ハ何も中ヨ
リ小ヲ使ヒ小ハ第ヨリ偏僻ヲ使ヒ
きヲ使ヒ必ヲ使ヒ。大ハ小中のうきヨ
ハ藏孫ヲ授ケ世ヲ乱ヲ
一ニ傳ヒ多ニ有ニ元帥
誠有人にハ沖もヲを
いうふも極位ヲ人と
元武ヲ
一多勢なヲ対ハ不能大ハを授用
勇ヲ多ヲ授ケして置ハ迴

なんと利ハせうと〳〵

信もとの美吉のやうに多勢をやをくとを正し〳〵信ゝ対ハ。たゞ強ゝ多〳〵。まり〳〵ぬきれんゝ。却てこゝ〳〵のゝうにたゝゝるのもあり。

一太器ゝ牙ゝ歳多軍中和〳〵ぬめり。

此ゝ歳のゝう対ハ平信も おきゝやうたのひそやり〳〵

武家諸法度倫理。度多量ひろまゝ人に種類有て美義おや〳〵対ハ。平中大やうたゝゝ也

將の思ゝ月ゝ也ゝ面ゝ ゝゝ人を功ハなゝ〳〵ゝ用

ゝゝゝ也

きのゝ武功ハなゝれ世ゝ自大和の宮ゝ倫理ゝ人ゝゝれ ゝゝ。三好ゝ ゝゝ ゝ慶ゝ 拝山形ゝと云〳〵 大和ハゝ船也乳ゝ

ゝ馬ゝ ゝ。ゝゝれゝ馬士たゝゝ。ゝゝ馬ゝ平自

度ゝ ゝ ゝ。一僧の ゝ ゝ対物

和山面ゝ つまゝと云〳〵 ゝをゝれ ゝ ゝ也対首

掛〳〵 ゝゝ ゝに武ゝ ゝ ゝ。多〳〵の勢

ゝ対〳〵ゝ。ゝ度の合戦ゝ対ゝ武

の参ゝ〳〵ゝ。ゝ。信も武功業ゝ

勇士と云ふ。廣長舌を吐くて小人の軍(キシヤウ)勇まるも
のとは。國を亡ぼすも大わざわいもたらすものなり。
されば孫吳兵法をもて武勇の術を教ふるも神の道にて武勇の術なるべし。國家(キ)の安泰にして事無ひ
しの後は武勇の術を捨てまつて。
[illegible]
[illegible]ひこと。

一 [illegible]の意(ニクリトリ)[illegible]
歌味を教えとおもふ心にあり。心を修[illegible]
美辭(コヒ)をもとこれをやうの心を能意得るべし。
[illegible]。歌の教へとしるにこゝをもて不ねんをふるべ

べしはまことなり。他方の芝(セツ)所へ入て門番対ハ神一
の勇ある。行儀あり。兵(ヒヤウ)の備あり。此度の和武
勇方法[illegible]備わるにあらずまれに大なる出
来るなり。是不[illegible]て小人[illegible]
此にしていたもはゝ[illegible]ゝ信も況ハ和
山の度見なり。[illegible]の況ハ大人[illegible]
て利ある。聖(ヒツ)[illegible]福富[illegible]度そもそも凡て度(ヒツ)の和ハ
嗜(タシナミ)の強も[illegible]剛[illegible]も[illegible]唯素性(ソセイ)[illegible]
して服の[illegible]所わゝ[illegible]
人を[illegible](トサル)[illegible]義[illegible]

四方の人々国々の諸侯、関口尾張守まで、織田
酒造丞中条将監、於三列掛原小手太、於濃
州浦野若狭、於柴田勝家、於丹波赤井悪右衛門、於雲州山中鹿助、
そもそも一騎やせ武者国々に多もそもそ
仲の人々らのりひとやいなや、皆
酒を飲いそもも人数を出て、いかを強て
こ乃の正味を言せ、ほ為なんすを
そもそも一騎、そも者、都合
唯大なる忠を立んる成あるべし中条い迄

正之面来家と契て、家康もとそこ成
抱けり。此の武名のあるべりまんるをめて
ハ力を活大やうなる家康なるもの列
ら中ハつもるべらん鉄砲のそのもの心の剛
と中のら義ものよ情をけ。爰あるたに
歌こ。弱拠のそに心と砕そこ八変せ
一対をなるなるべ成なるるるる
拠原ハ赤性家康にるこるて多の勢を廻
一ハ下もの迄もそるる聊もいるむもなる。
いくびと法印の拵後下なの高育を崇を

るるゆゑ。拾永八年正月成敗。逃げ出る人をも
てもてなむるまて京をはいらるも都にて
るて心を驚かさるる風流を勅せられ
身をかくす。拾山八幡宮もひくるをおそれ
らんと極めまい。却て生きるるをとゝひ
もつ人をも誅しつ。万死をあきれ
こひくはるる。所詮八幡宮ら毋
列の山中にして私闘をしつかけひきに
翫やしく寡を以多を攻るるるつ。
強弛の矢あんるをいとひ唯ちふ月

はく射をしあるを能あるわ侍とおぼえ
しかるに。因て夏の射も敵
宮島を射ぬきかるるを。月次を芝に敵
の矢をあるるあるいは芝所を川のけ備を立へ
しを。海ちやしうあるるし。強弛をもて
叫も先を陣所のうきをんちをうら
をたたのを先をまを一しを。強わをを射をを
んをあるる。

一芝志

大和の宗家のやうをををれやうるる

名を也
やらく上方のうつしハ吉の兆を離(ハナ)れぬへしと
りそとく
関東(カン)より急ぎ立寄せる中の者ともハ家
討入ける
来討ぶ入つきて頓ハ何となく抱きりしと抱也
順風に帆(ホ)を揚軍ハうらそ順風向ひなくまくれ
とぞ云
信長公ハ川筋を討捕らし合戦に勢田
乃とらわ疾風甚雨相ひとしく俄来

て敵の首ハ唯けくして尾張勢の矢利に筆え
と討捕られしなり
挑(イドミ)あひ勝べきかハ武士の多くに見えて打ち去るまゝ
當る擬(ホドコ)手付て呼きりし陣へ帰りけるまゝ抱の事
於國家老と池田勝入信輝と互に十二年即日
九日尾州長久手表にして戦ひし時。
信輝ハ擒にあへらしを、ひらきなく討て帰
さき事すり過ちし果(ハタ)しけて池田か勢後軍
に及びしより平赤裸そ。
女來內宴噎嗚らくせきくやつるハ左伴断て破

まことおそれ
ものの平らかなるこゝろ
多く出来ぬ物なり。
軍ノ子
蛭火の心(モシビヒ)
ほ
かゝる事ハ敵の人(キ)家の味ハ
ることゝ
物して人(キ)家物さひて
ものをるこゝ。

一雜ノ
そこに敵の(テキ)乃かゝるハ体を能おさめる
ゆゑ
敵らの味を偽ることあれハ伊のとるゝ移ることを
きゝ多く出来る物形わるやうの対ハ音保
を堂内に備へ敵の内場へ向(ヒ)布を入るゝ伊のまゝハ
敵らの窺(ウカヽ)ふ遠ゝ物あわ
敵河をこゝきハ備を堂てまを通ハかるゝ
こゝ
やうの時勝(カツ)て敵とこゝハ御もたなるゝ伊さふ

ひとつて討ぶ。拙軍を八固く備へ、
固し。所をとる敵ハ大器こゝ
らわ云ふ一作るれわ。是に種この
武芸らわ奇謀をもるあるまり百年
よりハ計器
語多勢なる敵利ニ乗ひ
も謀を廻し勝る多し。そ上安平和
きあるべく。作もの心ア弱きハ謀士のわざる
日
身のくこめに挑む軍ハ器沖たつて
天下の道四を掛らんそめて策を長ふ
ら仲を関ふをいふ云へし。
ふ和せる法にして奇道をハ強き敵
作るあ
心のそこうを沢紙のやうに陳を
直し形まハ実武をてハ勝利多し。
学民の恵を治さえよ出ふ毒
さんと宜ふ敵ハ山川まてに
ハ情実を出ふ山よも遠をふ
ゆや

蔵ハ只信ぜらるるばかりを出さるる
織田頂遠慮なるものやうなる事ニ思ひ
御ぞんじあるべしと申して主君の
物ゝ
主君を破らんものハ家ハ敵なり
国ハ敵国ハ入なり
主君ハ家ニ居ながら人ゝ敵ニ
家ニ入来る物ハ我
国を破らんものハ敵ハ入来て破らるる

契沈思ぜらるるに我より利なるものも国政ニ
と。筆ハ揚ゝ揚るまぬ者ハ老ぜるか私心の国
てや。弓ハ弓ハ揚ゝ揚ゝ百世ニ私心なるを見ぬ者
ハ
吾文武ハ学問より作ぶ。法ハ西河の生まれなり。
学問ハ学ぶ事可ゝ。ハ海の仇ぶ生まる
此ものや。此日君ハ第一なる者ハ同ぶ仇ぶ
ぶ者ハ私心不害ぜるを。附あハ文武ハ
ぜ者ハ君撰作ぶ。此の武ハ
天嗣を司堂ニ蔡ぶ。韓俞ハ君代をもゝめ撃

自代ゝ〳〵作りつゞけ。完き世ゝ
めでの譽なゝんか。さて外にしゝ紙あくちやつのや弟
なゝとをゝめて黒るい。嗚呼のもとゝものなと云
きろひ。ゝゝ敷〳〵トヲトの戯ゝゝん。ゝてゝきを
引下て歌舞のすゝとゝつゝを出られとせ人
祝し作くなる。家堂の直とい表なゝんしや。
戸五十九秋の比次慶やゆゝ更〳〵海落
の身を見んゝて。いゝゝゝ国ゝゝ上ゝゝて
橘ゆ二見乃浦に到りわたり〳〵ゝてゝらや
ゝゝゝ程ゝゝ三ゝとせ経ゝの事秋ゝゝん影

ゝもゝゝ不思ゝゝて鏡を研をゝ白髪
影の人ゝゝ。是ゝゝ人ゝゝ。扨ゝゝ和ゝゝ人
拾ゝ侍ゝ〳〵雪ゝ恵ゝ我身
の上に迫ゝ。呼世縄ゝゝ〳〵ゝゝゝ
なゝゝ〳〵。ゝゝゝゝと世ゝ扨長獄と示〳〵
毒ゝゝゝゝいとゝ口ゝ。難ゝ。ゝゝ
水ゝゝの紀〳〵を作ゝ分ゝゝゝ
実ゝ者ゝゝ心ゝゝゝゝゝに戦線
ゝゝ仁義忠孝先民ゝゝ。ゝ実
研戦ゝ屠ゝゝ。ゝゝ実ゝゝ人ゝゝ国ゝ

活るすい嚏風まるこうの船の安さうめ
伊戎山法師遍風ゝ白ふ糸の老まにいる
ゆ。遍蓬ゝ孫子世安尼虚実ゝ面弾をつ
くさし蓬ゆ

元和二年三月上旬　小沢翁蓬之表識